



目の付け所は……

校長 永井 有司

盛夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動に御理解・御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、先日、鉄道写真家の中井精也氏の講演会に参加しました。中井氏は、鉄道の車両だけにこだわらず、鉄道にかかわるすべてのものを被写体として独自の視点で鉄道を撮影し、毎日、その日に撮影した鉄道写真をブログで公開する「1日1鉄!」や、鉄道で感じる旅情やゆる〜い雰囲気を作品にした「ゆる鉄」など新しい鉄道写真のジャンルを生み出した方です。NHKの「てつたび」という番組に出演なさっているので、御存知の方もいらっしゃると思います。



講演の中で、中井氏は多くの写真を紹介してくださったのですが、当初わたしが想像していた写真とは全く違っていました。鉄道写真家と聞き、鉄道博物館にあるような車両が被写体として中心に据えられて、日本各地を縦横無尽に走っている写真が多いものと考えていました。当然、美しい写真ばかりなのですが、一瞬「あれっ、どこに鉄道があるのかな?」と思うようなものが多いのです。よく見ると、菜の花の間から走っている列車が見えたり、踏切のマークだけが覗いていたりして、それこそ「ウォーリーをさがせ」的に鉄道に関わるものを楽しんで探すような写真もあります。いずれにしても、とてもすてきな写真ばかりで旅情の雰囲気を味わいながら、心癒されるひと時を過ごすことができました。

中井氏の写真を見ながら、ふと感じたことがありました。「同じ場所に自分が立っていたなら、一体どんな写真を撮ったんだろうか」と。もちろん、素人のわたしとプロの中井氏を比較すること自体が失礼に当たるとは思いますが、同じ風景を見ていても、目に入ってくるものが全く違う、つまり目の付け所が違うのだらうと思います。旅行に行った時の、自らが撮影した何の変哲もない写真を眺めながら、ゾクッとしました。「子どもたちを見る目がこんなに平面的であつたら、本当の児童理解にはつながらない。浅くほど遠い理解になってしまう」と。どの子どもにもいろいろな側面があります。一人の子どものもつ特性(特徴)を全て理解することはできないと思いますが、できるだけいろいろな角度から子どもを見るようにし、自分以外の見方も取り入れることによって、少しずつ子どもへの理解が深まっていくのだらうと思います。講演会に出席しながら反省させられました。

《学校運営協議会委員の皆様》

	委員氏名(☆長,○副)	所属等
1	☆浦 輝和 様	学校運営協議会会長
2	吉岡 榮治 様	北浦和東部自治会会長
3	登坂 英明 様	学校医
4	小宮 秀昭 様	青少年育成北浦和地区会会長
5	高岡 五百子 様	青少年育成北浦和地区会副会長
6	淤見 尚子 様	厚德幼稚園園長
7	田中 一秀 様	本太中学校校長
8	近藤 真紀 様	北浦和小学校PTA会長
9	○松沢 大輔 様	北浦和小学校PTA顧問
10	早川 加奈子 様	北浦和小学校PTA副会長
11	尾崎 美季 様	北浦和小学校PTA書記
12	菅野 ユミ 様	北浦和小学校PTA会計

☆学校運営協議会委員の皆様紹介

令和4年度より、本格的にスタートしておりますコミュニティ・スクールですが、6月27日(木)に第1回の学校運営協議会を実施いたしました。令和4年度から取り組んでおりますテーマ「豊かな心を育む」を、今年度は、更に実効性のあるものに高めようと熟議を進めました。「地域と共に歩む学校」を目指し、家庭・地域と一体となって推進していきたいと願っております。